

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム日翔館 2階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年10月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500744-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄・JR新札幌駅から徒歩15分程、周辺にはマンションや病院、工場が多くある中にグループホームがあります。3階建ての建物の1階は隣接する協力病院系列のデイサービスが併設されています。その2、3階が2ユニットのグループホームです。併設するデイサービスとは合同で避難訓練を実施したり、行事に相互訪問するなど連携をしています。地域柄、町内会組織はありませんが、屋外で実施する夏祭りなどには、地域の親子連れの方が参加されたり、運営推進会議には地域包括支援センターやデイサービス、協力病院のソーシャルワーカー、民生委員、自衛消防団員の方たちが参加してくださっています。日常の生活が同じことの繰り返しにならないように、職員が企画した行事を多く実施しています。ユニット毎に花見や公園散策、紅葉狩りなどにも出かけたり、少人数で個別レクを行っています。今年度は男性の入居者様たちと釣りに出かけたり、女性の入居者様たちはラベンダー狩りにも出かけしています。また、ご家族様の参加もいただいて、敬老会や夏祭り、クリスマス会などを両ユニット合同で行っています。運営推進会議も同様ですが、ご家族様たちの参加率が高く、入居者様と一緒に楽しめることはとても素晴らしいことだと思います。入居者様たちのADLを維持、向上のために、残存機能を活かした取り組みを心がけています。また、介護者主導ではなく、入居者様の意向に沿った日常の介助となるようしています。不適切なケアと思われる事象があった場合は、職員間で話し合い、委員会で対策を検討しています。また、定期的に研修を行い、未然に防ぐための取り組みもを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム日翔館」はJR駅や地下鉄駅から徒歩圏内にあり、交通便がよい住宅地に位置している2ユニットの事業所である。周囲には集合住宅などが建っており、協力医療機関の病院が隣接している。3階建ての2～3階がグループホームの住まいで、1階には医療法人のデイサービスがあり、避難訓練を合同で行っている。地震を想定した訓練を実施していたが、今回の地震による停電を経験し、非常災害時に向けて更に力を注ぎ安全な環境を整備している。定期的な協力医の往診、また通院や緊急時の対応で医療面も充実している。地域性の状況から町内会はないが、開設12年が経過する中で地域の芸能発表会に参加したり、公園などの散歩や周辺の店で買い物をして住民と自然に触れ合っている。管理者は法人の体制変更に沿って、今年度より事業所が独自に研修体制を充実するとともに、自己チェックシートを活用して、課題や達成を個人ごとに話し合い、職員が質の高いサービス提供に向けて意欲的に学べる環境を整えている。家族との信頼関係を築く中で家族の来訪者が多く、外出支援の協力があり、運営推進会議への参加率も高い。職員は利用者の思いを聴き取り、釣り堀や以前にボランティアで活躍していた場所と同行するなど、個人の希望に沿って可能な限り対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の数カ所に基本理念を掲示しており、日常的に確認をしながら日々の介護に従事しています。	事業所独自の理念に地域密着型サービスの内容があり、行事や外出時に住民と交流している。新人研修で理念を説明し、普段の業務で気になることがあれば、カンファレンスや申し送りの際に理念に照らし合わせて確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域支援包括や隣接する協力病院、併設するデイサービスの方々の参加をいただき、避難訓練では地域消防団の方の参加をいただいています。	昨年の事業所夏祭りには地域消防団の人が参加している。利用者は地域住民の芸能発表会に出かけ住民と一緒に観賞して楽しんでいる。行事の機会や利用者の意向に合わせたボランティアの来訪があり、中学生の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様のご家族様や施設入所希望の方など問い合わせがあった際にはその方の症状、状態に合わせた相談に応じています。また、認知症ケア学会会員の方が職場内に2名おり、その案内を掲示しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見や質問を随時現場で活かしていけるようにしています。また、改善点については早急に対応をしています。	2か月ごとに会議を開催し、地域消防団員、地域包括支援センター職員、多数の家族参加を得て、行事、防災、感染症、研修、事故報告などで情報を共有している。質疑応答をもとに、意見や情報をサービスに活かせるように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で抱えた問題について、行政判断が必要な場合は随時相談をし、事故などについては所定の書式で報告を行っています。また、生活保護を受給されている入居者様については定期で面接などを受けています。	市のグループホーム管理者会議で、市の担当者から認知症カフェや虐待・身体拘束に関する市の取り組みについて情報を得ている。区の各担当者にオムツサービスなどの申請代行や事務的な処理で分からない時はその都度確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケア防止委員会を設置し、3ヵ月に1度以上委員会を開催しています。また、半期に1度以上の割合で職員研修を実施しています。やむを得ず身体拘束を行わなくてはならない場合は家族様の了解を得た上で、三原則に則った対応をし、記録に残すようにしています。	今年度より役職者で構成する会議を開き、身体拘束について情報を交換し、ベッドからの転倒防止の事例で対応を協議している。内部研修では資料を活用して学び深め、その中で身体拘束の具体的な禁止行為や不適切な言葉遣いについて確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスの時間を使って職員研修を行っています。また、日常的な取り組みの中で虐待を意識しながら介助が行えるように情報交換を行っています。		

ふれあいの里 グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状として活用されている方はいないが、必要性は随時お伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、重要事項説明書の説明を併せて行わせていただき、質問事項については納得のいくように説明をさせていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からのご意見、連絡事項があった場合には、記録に残して全職員で内容を共有できるようにしています。また、改善が必要な場合は速やかに改善を行えるように心がけています。	家族の来訪時にケアや介護計画について話し合い、今回の地震の際には全家族に電話で状況を伝えている。家族の要望や意見に沿って対応を話し合い、記録をパソコンで管理し家族の個別の思いを共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間予定の中に2度の職員面談期間を設け、職員との意見交換を行えるようにしています。また、日常的にも必要に応じて意見交換ができるように心がけています。	毎月のユニット会議の前に役職者会議で議題を整理し、伝達のほかに業務改善、研修報告、ケアカンファレンスなどで意見を交換している。今年度から年に2回個別面談の機会をつくり、個人の目標計画に沿って話し合い、相談ごとを聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、計画作成担当者には年間2回人事考課を実施しています。また昇給、ベースアップなどの給与水準の見直しなども行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から社内研修体制を一新し、自己チェックシートによる課題発見、eラーニング等による自己研修、職場でのOJTへと繋げていっています。また、外部研修にも参加してもらえるように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市の管理者会議などに参加して情報収集や情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の声を傾聴し、一人一人のニーズに沿ったケアの実践ができるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に入居者様のこれまでの生活歴を把握し、ご家族様の希望を伺った上で暫定のケアプランを立て、1ヵ月後をめどにその内容を見直すようにしています。また、常にコミュニケーションを密にしているように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では家庭的な雰囲気の中で生活をしていただけるように気を配っています。入居者様からの声を大切にし、お互いに理解し合えるように心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からのご意見、ご要望を大切にし、改善が必要な点に関しては入居者様にとって快適な生活ができるように見直しを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族様がこれからも繋げていきたい関係については途絶えぬようにしています。逆に施設入所を機会に関係を切りたい場合には、その意向に沿うように協力しています。	友人や知人の来訪時に一緒に散歩する方もいる。家族と外食や買い物などに出かけている。意向に沿って釣り堀や以前にボランティアで活躍していた場所に職員が同行している。会話から馴染みの場所を聞きグループで出かける企画も考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる時間も大切にしながら、居室に籠もってしまわないように機会を見つけて声かけをしています。リビングでは入居者様同士が気軽に話をするように話題提供などもしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事がある場合には退居された方にも可能な限り、また負担とならない程度に声かけをして参加していただくなどしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを把握し、それを大切にしながら日々の生活を送れるように努めています。	ほぼ会話が可能で意向に沿って可能な限り対応している。利用開始時のセンター方式のアセスメントでは変化の追記などがなく、全利用者の定期的な情報の蓄積が行われているとは言えない。	センター方式の【B3シート】を活用し、利用者の暮らしの習慣、趣味嗜好などの変化を記載して記録でも共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じてセンター方式などを利用して、その方の生活歴の把握に努め、安心した生活ができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を把握して、残存機能を維持しながらできるだけ活動的な暮らしができるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のニーズを重視し、また課題分析を繰り返ししながら介護計画の作成に努めています。	変化がなければ基本的には3か月ごとにモニタリングを行い、6か月～1年で更新計画を作成している。日々の記録はパソコンの書式から制限があり、介護計画に沿って変化なども記入できるようにパソコン委託会社と検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務前に介護記録を確認することを心がけ、入居者様の様子や状態の変化などを共有して勤務に入るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の声を大切にし、必要に応じてサービスの見直しを行っています。また、柔軟な視点で新規のサービス利用も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括や社会福祉協議会などと連携をして地域ボランティアなどの実情を把握し、行事や日常生活での活用にも努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の訪問診療や看護師相談で健康状態の把握に努め、状況に変化があったときには連絡をとれるように関係を密にしています。	利用開始時に受診先の意向を確認し、全員が内科の往診を受けている。緊急時や専門的な他科受診は職員が同行し、結果を家族に報告している。受診内容はパソコンで管理し、往診、受診の経過を個別に抽出して見ることができる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の看護師訪問時に気になる点について相談し、アドバイスをもらっています。また、定期的な院内研修に参加して関係を密にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、主治医から家族様への治療方針の説明時に同席させてもらい、安心した施設での生活に繋がるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合についての指針の同意を得ています。施設、ご家族様、病院と連携をして安心した終末期に向けた取り組みができるように心がけています。	利用開始時に重度化対応指針を説明し、看取りは行っていないことの理解を得ている。状態の変化で話し合い、隣接の協力病院の入退院を繰り返しながら、家族の意向に沿って可能な限りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員を対象に、市の消防署が実施している普通救命救急の講習を受講してもらい、基本的知識の習得を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練もいろいろな場面を想定して、実際に即した訓練となるようにしています。また、地域消防団の参加を依頼して、改善点などを次の訓練に繋げています。	日中想定避難訓練を1階のデイサービスと合同で実施している。夜間の地震を想定した訓練で危険な箇所なども確認しており、9月地震時の対応につながっている。今後は停電に伴う冬季の暖房について検討している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという気持ちを忘れず、その方の尊厳を尊重しながら対応をしています。	認知症対応の接遇は法人のeラーニングで職員が研修しており、プライバシーに配慮した対応をしているが、気になる言葉がけが聞こえた時に管理者は注意し会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者主導とならないように、ご本人の希望が尊重されるような声かけを行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で決まった日課はあるため待つてもらったことありますが、その方の希望に添った生活を送れるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでもらったり、同じ服ばかりを着ることがないように声かけをしています。また、朝にはブラッシングなどを行ってもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理によっては職員と一緒に皮むきや味付けなどのお手伝いをしています。また、料理の盛りつけなどをしていただいています。	食材と献立が搬入されているが、行事食や毎月の自由献立、外食などで変化をつけている。餅つきや流しそうめんなど季節ごとに利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を管理し、摂取量が少ない場合は声かけで促したり、栄養補助食品で補完したりしています。また、好みのものを見つけて提供するなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行っています。ご自分でできない方は介助によって行っています。また、訪問歯科医師からの助言を得て、計画に基づいたケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のADLに合わせた介助を行っています。過剰な介助とならないように自立支援に努めています。また、安易に紙パンツ、おむつに依存することのないようにしています。	排泄面で自立していても全員の排泄記録をつけている。感覚のわかりづらい利用者にも排泄のタイミングを見逃さないよう適切にトイレ誘導をしている。夜間帯も基本はトイレで排泄してもらい、不快な状況を減少させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にのみ依存することなく、食生活や水分摂取にも気を配り、いきめない方には腹部マッサージを行うなど快適に排便があるように心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日の日課があるため、大幅に時間を変更しての入浴は難しいが、入浴日の中で希望があれば入浴順番などを調整し、気持ちよく入浴ができるようにしています。	毎日3人から4人が入浴をしている。状況により座位が保てない場合でもシャワーチェアで清潔にしている。希望があれば同性介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない生活をしていただくために、適宜休息をとってもらえるようにしています。ただ、昼夜逆転とならないように声かけをして、夜間の良眠にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報で処方薬の管理を行い、必要に応じて確認できるようにしています。また、薬の変更があった場合には情報を共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様の協力を得ながら、生活歴を把握しながら楽しく暮らせるようにしています。役割を持つことによって生き甲斐を見いだせるようにしています。		

ふれあいの里 グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の来所時に可能な限り外出していただけるようお願いをしています。また、年末年始やお盆など親戚が集まるような機会がある時は、可能な限り外泊などもいただいています。	厳冬期以外は外出の機会も多く、日々の散歩の他、リユースプラザ見学や下野幌会館で地域の発表会に参加したり、ドラッグストアやショッピングセンターに出かけている。全体での外出の他に個別の外出も多く、男性数名で釣り堀に行ったり、バラ園、ラベンダー狩りに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭の所持を基本的に行わせていません。必要な場合は立替にて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は事務所から電話をかけていただいています。また、ご自身の携帯電話をお持ちの方もいます。書簡についてもお預かりして投函しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な居住空間となるように刺激や違和感を持つような現象を排除できるようにしています。また、季節に合わせた壁画などの装飾を入居者様と一緒に作成して掲示しています。	床暖房で暖かく、明るく広い居間に集いテレビを見たりソファに腰掛け自由に過ごしている。トイレも各階4か所あり便利である。行事の写真や利用者の作品が飾られ、楽しい空間となっている。マッサージチェアも置いてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファの配置を工夫したり、窓から外を眺められるように椅子を置いたりして自由に空間を使えるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に新しいものを買って揃えるのではなく、使い慣れた馴染みのものを持参していただき、早く生活に慣れ落ち着いた生活を過ごすことができるようお話をしています。	冷蔵庫やテレビ、姿見、仏壇、ぬいぐるみ、雑誌など利用者ごと入居前からの好きなものを持ち込み自由に安心して暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大切にし、その方の残存機能を活かした生活ができるように心がけています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム日翔館 3階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年10月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500744-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄・JR新札幌駅から徒歩15分程、周辺にはマンションや病院、工場が多くある中にグループホームがあります。3階建ての建物の1階は隣接する協力病院系列のデイサービスが併設されています。その2、3階が2ユニットのグループホームです。併設するデイサービスとは合同で避難訓練を実施したり、行事に相互訪問するなど連携をしています。地域柄、町内会組織はありませんが、屋外で実施する夏祭りなどには、地域の親子連れの方が参加されたり、運営推進会議には地域包括支援センターやデイサービス、協力病院のソーシャルワーカー、民生委員、自衛消防団員の方たちが参加してくださっています。日常の生活が同じことの繰り返しにならないように、職員が企画した行事を多く実施しています。ユニット毎に花見や公園散策、紅葉狩りなどにも出かけたり、少人数で個別レクを行っています。今年度は男性の入居者様たちと釣りに出かけたり、女性の入居者様たちはラベンダー狩りにも出かけています。また、ご家族様の参加もいただいて、敬老会や夏祭り、クリスマス会などを両ユニット合同で行っています。運営推進会議も同様ですが、ご家族様たちの参加率が高く、入居者様と一緒に楽しめることはとても素晴らしいことだと思います。入居者様たちのADLを維持、向上のために、残存機能を活かした取り組みを心がけています。また、介護者主導ではなく、入居者様の意向に沿った日常の介助となるようしています。不適切なケアと思われる事象があった場合は、職員間で話し合い、委員会で対策を検討しています。また、定期的に研修を行い、未然に防ぐための取り組みも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の数力所に基本理念を掲示しており、日常的に確認をしながら日々の介護に従事しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域支援包括や隣接する協力病院、併設するデイサービスの方々の参加をいただき、避難訓練では地域消防団の方の参加をいただいています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様のご家族様や施設入所希望の方など問い合わせがあった際にはその方の症状、状態に合わせた相談に応じています。また、認知症ケア学会会員の方が職場内に2名おり、その案内を掲示しています。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見や質問を随時現場で活かしていけるようにしています。また、改善点については早急に対応をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で抱えた問題について、行政判断が必要な場合は随時相談をし、事故などについては所定の書式で報告を行っています。また、生活保護を受給されている入居者様については定期で面接などを受けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケア防止委員会を設置し、3ヵ月に1度以上委員会を開催しています。また、半期に1度以上の割合で職員研修を実施しています。やむを得ず身体拘束を行わなくてはならない場合は家族様の了解を得た上で、三原則に則った対応をし、記録に残すようにしています。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスの時間を使って職員研修を行っています。また、日常的な取り組みの中で虐待を意識しながら介助が行えるように情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状として活用されている方はいないが、必要性は随時お伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、重要事項説明書の説明を併せて行わせていただき、質問事項については納得のいくように説明をさせていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からのご意見、連絡事項があった場合には、記録に残して全職員で内容を共有できるようにしています。また、改善が必要な場合は速やかに改善を行えるように心がけています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間予定の中に2度の職員面談期間を設け、職員との意見交換を行えるようにしています。また、日常的にも必要に応じて意見交換ができるように心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、計画作成担当者には年間2回人事考課を実施しています。また昇給、ベースアップなどの給与水準の見直しなども行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から社内研修体制を一新し、自己チェックシートによる課題発見、eラーニング等による自己研修、職場でのOJTへと繋げていっています。また、外部研修にも参加してもらえるように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市の管理者会議などに参加して情報収集や情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の声を傾聴し、一人一人のニーズに沿ったケアの実践ができるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に入居者様のこれまでの生活歴を把握し、ご家族様の希望を伺った上で暫定のケアプランを立て、1ヵ月後をめどにその内容を見直すようにしています。また、常にコミュニケーションを密にしているように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では家庭的な雰囲気の中で生活をしていただけるように気を配っています。入居者様からの声を大切にし、お互いに理解し合えるように心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からのご意見、ご要望を大切にし、改善が必要な点に関しては入居者様にとって快適な生活ができるように見直しを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族様がこれからも繋げていきたい関係については途絶えぬようにしています。逆に施設入所を機会に関係を切りたい場合には、その意向に沿うように協力しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる時間も大切にしながら、居室に籠もってしまわないように機会を見つけて声かけをしています。リビングでは入居者様同士が気軽に話をするように話題提供などもししています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事がある場合には退居された方にも可能な限り、また負担とならない程度に声かけをして参加していただくなどしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを把握し、それを大切にしながら日々の生活を送れるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じてセンター方式などを利用して、その方の生活歴の把握に努め、安心した生活ができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を把握して、残存機能を維持しながらできるだけ活動的な暮らしができるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のニーズを重視し、また課題分析を繰り返ししながら介護計画の作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務前に介護記録を確認することを心がけ、入居者様の様子や状態の変化などを共有して勤務に入るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の声を大切にし、必要に応じてサービスの見直しを行っています。また、柔軟な視点で新規のサービス利用も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括や社会福祉協議会などと連携をして地域ボランティアなどの実情を把握し、行事や日常生活での活用にも努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の訪問診療や看護師相談で健康状態の把握に努め、状況に変化があったときには連絡をとれるように関係を密にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の看護師訪問時に気になる点について相談し、アドバイスをもらっています。また、定期的な院内研修に参加して関係を密にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、主治医から家族様への治療方針の説明時に同席させてもらい、安心した施設での生活に繋がるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合についての指針の同意を得ています。施設、ご家族様、病院と連携をして安心した終末期に向けた取り組みができるように心がけています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員を対象に、市の消防署が実施している普通救命救急の講習を受講してもらい、基本的知識の習得を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練もいろいろな場面を想定して、実際に即した訓練となるようにしています。また、地域消防団の参加を依頼して、改善点などを次の訓練に繋げています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという気持ちを忘れず、その方の尊厳を尊重しながら対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者主導とならないように、ご本人の希望が尊重されるような声かけを行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で決まった日課はあるため待つこともありますが、その方の希望に添った生活を送れるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでもらったり、同じ服ばかりを着ることがないように声かけをしています。また、朝にはブラッシングなどを行ってもらっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理によっては職員と一緒に皮むきや味付けなどのお手伝いをしています。また、料理の盛りつけなどをしていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を管理し、摂取量が少ない場合は声かけで促したり、栄養補助食品で補完したりしています。また、好みのものを見つけて提供するなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行っています。ご自分でできない方は介助によって行っています。また、訪問歯科医師からの助言を得て、計画に基づいたケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のADLに合わせた介助を行っています。過剰な介助とならないように自立支援に努めています。また、安易に紙パンツ、おむつに依存することのないようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にのみ依存することなく、食生活や水分摂取にも気を配り、いきめない方には腹部マッサージを行うなど快適に排便があるように心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日の日課があるため、大幅に時間を変更しての入浴は難しいが、入浴日の中で希望があれば入浴順番などを調整し、気持ちよく入浴ができるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない生活をしていただくために、適宜休息をとってもらえるようにしています。ただ、昼夜逆転とならないように声かけをして、夜間の良眠にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報で処方薬の管理を行い、必要に応じて確認できるようにしています。また、薬の変更があった場合には情報を共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様の協力を得ながら、生活歴を把握しながら楽しく暮らせるようにしています。役割を持つことによって生き甲斐を見いだせるようにしています。		

ふれあいの里 グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の来所時に可能な限り外出していただけるようお願いをしています。また、年末年始やお盆など親戚が集まるような機会がある時は、可能な限り外泊などもしていただいています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭の所持を基本的に行わせていません。必要な場合は立替にて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は事務所から電話をかけていただいています。また、ご自身の携帯電話をお持ちの方もいます。書簡についてもお預かりして投函しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な居住空間となるように刺激や違和感を持つような現象を排除できるようにしています。また、季節に合わせた壁画などの装飾を入居者様と一緒に作成して掲示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファの配置を工夫したり、窓から外を眺められるように椅子を置いたりして自由に空間を使えるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に新しいものを買って揃えるのではなく、使い慣れた馴染みのものを持参していただき、早く生活に慣れ落ち着いた生活を過ごすことができるようお話をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大切にし、その方の残存機能を活かした生活ができるように心がけています。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム日翔館

作成日：平成 30年 10月 3日

市町村受理日：平成 30年 10月 4日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	センター方式の【B3シート】を活用し、利用者の暮らしの習慣、趣味嗜好などの変化を記載して記録でも共有できるように期待したい。	各ユニットで入居者様分のセンター方式【B3シート】をご家族様の協力を得ながら作成し、入居者様の生活の理解に繋げていく。	両ユニットの計画作成担当者をご家族様に用紙を配布して記入できる箇所を埋めていただく。また、ご本人から聞き取り可能な箇所についてはこちらで記入していく。半年をめぐりに内容に変更があった場合は、訂正、追加していく。	6ヵ月間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。